

● 専門家派遣

岡崎市近郊での講義や岡崎市内の先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を行い、地域課題に対する複合的解決策の提示を推進しました。

講師・コーディネーターなど

三河ものづくり学(講義):愛知産業大学/JAIST地域人材育成セミナー:北陸先端科学技術大学/空き家・古民家再発見講座:愛知県(西三河農林水産事務所)/愛知県森林協会/愛地球博記念公園マネジメント会議:愛知県/蒲郡市団体育成講座:蒲郡市/Vivaつながる日本語教育事業運営委員会:Vivaおかざき!!



岡崎市総合計画審議会/岡崎市景観審議会/岡崎市市民協働推進委員会/岡崎市観光アクションプラン推進委員会/NPOと行政の協働に関する実務者会議(愛知県)/観光推進協議会

● まち育てインターンの受入

自治体から派遣された研修生15名を対象にインターンプログラムを開催。各センターの事業運営等を通じて、受講者のまちづくりリテラシーを高めることを目的とした研修を実施しました。また「りた」にとっては、インターンの受け入れにより各事業に第三者的視点の加わり、内部職員だけでは気づかなかった事業の良い点や改善点が見つかり、既存事業の底上げにつながる機会となりました。



● りたスタッフ研修

今年度新たに入社したスタッフに対し、岡崎市内のNPO/市民活動の潮流とりたの位置づけを学び、りたが掲げる事業方針に基づいた支援業務の概要に触れつつ、中間支援組織の一員としての業務に従事できるよう教育を実施。加えて、近隣他地域の市民活動センターの視察を行い、市民協働まちづくりの他事例を学びました



落ち葉を利用した堆肥づくり(春咲の丘公園)



連尺通り生活社会実験



第8回岡崎まち育てフェスタ



六ツ美まるごと交流会

特集

2018年度のりた

「自分たちのまちを自分たちで良くすること(市民自治)」、「市民が公共の担い手となること(新しい公共)」を目指した「持続可能な社会」の実現がりたの使命です。市民自治と新しい公共の実現に向けた動機づけとして、現在、希薄になったと言われている「まちと人との関係性を結びなおすこと」に取り組んでいます。

りたの前身組織の時代を含めて14年間にわたり担ってきたまち育ての拠点施設(地域交流センター、市民活動センター)の管理運営事業では、地縁組織や市民活動団体、事業者、ボランティアの方々とのつながりを重視。市民協

働型社会の最も重要かつ根源的な社会資源となりました。一方、近年、行っている地域包括支援センターへの支援では地域主体の高齢者支援の仕組みづくり、公園緑地課への支援では公園利活用のための仕組みづくりに対する支援を実施。会議などの場面で、取り組むべき課題への提案を行なってきました。

これらのことから、りたの有する社会的ネットワークおよびファシリテーション技術が有効であることが明らかとなりました。この状況を踏まえ、りたは3つの主要テーマ(地域資源、福祉、防災)を掲げて事業を推進しました。

●数字で見る「りた」2018

決算額(経常費用)

2億1269万円

大規模のまちづくり事業が一段落し、2018年度は、その成果を展開することなどで、より地域に密着した事業に注力しました。

従業員数

54人

(常勤職員15人・パート39人)

このほかにアルバイト、プロジェクトスタッフの方もいます。

第8回岡崎まち育てフェスタ 協働団体数/来場者数

17団体/724人

各センターからまち育てフェスタの企画、食品販売、ステージ発表の団体を募り、市民・事業者・行政関係者が一堂に会して、市民活動の普及、啓発を図るイベントを開催しました。

ボランティア役務提供額(898円/h換算)

458万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化しました。2018年度も非常に多くのボランティアさんに支えられました。(延べ2,560名5,103.0時間)

交流センター年間利用者数合計

約44万人

1年間に地域交流センターをご利用いただいた人数を5館分合計すると、岡崎市の人口を上回る数になります。

岡崎まちものがたり ポータルサイト制作・ 運用業務

35記事

岡崎市市制100周年記念『岡崎まちものがたり』の作成過程で集積された情報を厳選。改めて取材・編集を行い、岡崎市シティプロモーションサイト「岡崎ルネサンス」の「〇になる」岡崎まちものがたりにて、35本の記事を公開しました。

「まちびとバンク」ボランティア マッチング人数/募集依頼件数

3,207人/97件

「まちびとバンク」で1年間に地域交流センターと市民活動センターで受け付けたボランティア募集依頼件数とマッチング数です。

●「りた」が掲げる“3つの主要テーマ”に対する成果

地域資源



①全てのまち育て拠点施設(地域交流センター、市民活動センター)において、地域資源を再発見、再認識する場として、まち歩きを企画運営。協力者や参加者が地域に足を運ぶことにより、まち育ての担い手の育成が進みました。

【該当事業】まち育てスクール

②十分な活用が図られていない公共空間(河川敷、道路、公園等)を地域資源として位置づけ、市民が関わることや使いこなす仕掛けに注力し、豊かな空間づくりと同時に担い手の育成が進みました。

【該当事業】おとがワ！ンダーランド、連尺通り社会実験、公園利活用ニーズ調査ほか

福祉



①市民活動団体をはじめ公益活動に取り組む方々が地域貢献(高齢者向けの講座の開催等)をするための機会を提供したほか、地域交流センターの共用空間を活用したミニイベントに福祉系学生(岡崎女子大学、慈恵福祉保育専門学校等)を積極的に巻き込むことで、地域福祉の新しい担い手の発掘ができました。

【該当事業】生きがいづくり促進事業(よりなん)、ふれあいひろば(やはぎかん)ほか

②地域主体の地域包括ケアシステムの構築に向けて、コーディネーター(りた職員)を派遣することで、活動を活性化することができました。

【該当事業】地域包括ゼミほか

防災



地域交流センターにて、それぞれの地区特性に応じた防災講座を開催しました。なかでも女性や子育て世代にターゲットを絞った防災講座を開催することで、新しい地区防災の担い手の育成が進みました。

【該当事業】地域自主防災の枠組み構築支援事業、防災イベント、防災講座ほか



●乙川リバーフロント地区まちづくり デザイン事業(連尺通り生活社会実験)

連尺通りを舞台にした社会実験を実施。暮らす人や商う人、訪れる人たちに協力いただき、連尺通りならではの過ごし方や使いこなし方を約1か月間にわたり検証しました。(⇒Litaracy97号参照)。



●乙川リバーフロント地区まちづくり情報発信

公民連携まちづくり社会実験、まちづくりフォーラムをはじめとした事業への理解を深めることを目的に広報物を制作。川の活用について情報発信することで、市民の参画促進を図ることができた。



●第8回岡崎まち育てフェスタ 『まち育(行く)！フードフェスタ』

地域交流センターと市民活動センターが総力を結集し、計21団体と協働して開催した市民活動の祭典。今回新たな試みとして「まち育フード」というオリジナルフードの販売を実施。事業者による協賛品や地元の特産品を使った計11種類の商品を市民団体の方が企画・販売し、売り切れの商品が出るなど好評を博

しました。また、「まち育シアター」と題し、各センターにおいて特筆すべき公益活動や取り組みを紹介した動画の上映や各エリアで活動する団体による「ステージ発表」を実施。市内の地域活動を広く周知する機会となりました(来場者:約600名)。



●公園利活用ニーズ調査業務

岡崎市が進める公園愛護会組織「公園愛護運営会」の設立支援を行う事業。昨年度まで進めてきた「春咲3公園愛護運営会(針崎東町)」の活動をフォローアップし、組織的自立を促しました。また、針崎地区での経験をもとに市内全域に公園愛護運営会を増やすため、調査やヒアリングを実施しました。



●地域包括ケア 支援事業

「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」を目指す拠点施設である地域包括支援センター。そのセンター職員を対象とした会議ファシリテーション研修を3つのモデル学区(竜美丘、三島、六ツ美南)に対して実施しました。



●地域自主防災の 枠組み構築支援事業

岩津支所と連携し、地域に有効な防災マップを住民同士で話し合い作成するワークショップを開催(奥殿学区)。防災意識向上ならびに自主防災の体制づくりを図りました。

まち育て推進チーム／市民活動支援チーム

2017年度の事業(抜粋)



●おとがワ！ンダーランド (おとがワ！活用実行委員会事務局運営業務)

国が推進する河川を活用したまちづくり(通称「かわまちづくり」)を行う事業。今年度は6月1日～3月31日までの10か月間をおとがワ！ンダーランドの実施期間とし、期間中に申し込みのあった23事業者・団体により39のプログラムが開催。殿橋テラスは、7月6日～11月25日の約5か月間を実施期間として、これまでで最長の営業となりました。また、プログラム実施時以外も乙川河川敷の使い方・過ごし方を観察、記録し、河川活用を誘発するような風景の発信に努め、日常的な河川活用を啓発しました(⇒Litaracy96号参照)。



●岡崎カメラがっこう運営業務

そのまちを訪れたいくなるような写真「ローカルフォト」を活用してシティプロモーションを実践している専門家を招いて、トークライブ(講演会)とスキルアップ講座(2回)を開催(20名参加)。人の顔が見える写真を撮影するには、まちの人とのコミュニケーションが重要ということなどを学び、SNSなどで岡崎の魅力を発信する担い手を育成しました。(⇒Litaracy98号参照)



●(仮称)乙川人道橋等名称募集公募

人道橋の名称と通りの愛称について、2か月間の公募期間を設け、岡崎市役所、りぶら、地域交流センターなどのPRキャラバンを実施し、人道橋の名称に4004件、通りの愛称に3834件の応募が集まりました。それらの案から、選定委員会により絞られた各5点に対して市民投票を呼びかけ、各7650票、7585票の投票により、「桜城橋」、「天下の道」に決定しました。



●岡崎まちものがたりポータルサイト

2016年度に作成した「岡崎まちものがたり」の情報を選定し、再度取材を行ったうえで、WEB上に情報を掲載。市内外へ周知を行うことで、岡崎市の魅力発信を行うとともに地域愛を醸成し、シティプロモーションを推進しました。

■URL: <http://www.okazaki-renaissance.org/story>



●会議運営・フォーラムの開催

観光産業都市の創造やまちの活性化に資する公民連携のまちづくりの推進に向けて、行政、専門家、事業者が戦略を練る会議(デザイン会議等)の運営支援を行ったほか、公民連携まちづくりの動きを市民に伝えるフォーラム「動き出した、Quruwa」(2/17)を開催しました(145名参加)。

北部地域交流センター・なごみん



2017年度の事業(抜粋)



●なごみんフェスタ

公益活動を行う団体のステージ発表、体験、販売を通じて活動の促進を図るイベント。約900名の市民と市民活動団体が交流し、活動の周知ができました。



●なごみん横丁

子どもたちが仮想のまちを運営しながら、まちづくりを体験するイベント。子どもたちの自主性や創造性を育むと同時に社会の仕組みを知ることで、まちへの興味を高める機会となりました。



●なごみんカレッジ

岡崎聾学校の生徒や市民活動団体を講師に迎え、手話の体験やマジック講座を開催しました。団体の活動を市民に発信し、交流する機会となりました。



●まち育てスクール

地域の寺院などを巡るまち歩きを実施。郷土史家の案内で、「細川」の地名が風土に由来する話などがされ、参加者の探究心を掻き立てる企画となりました。



●地域活動サミットin北部

北部地域で活動している団体のための活動発表会と交流会。参加した7団体により活動内容や団体運営の工夫点、今後の展望についての共有がされ、活動促進の機会となりました。



●広報講座

市民活動団体を対象に広報活動に必要な基礎知識やパソコンの操作をマンツーマンで講習。通年事業としたことで継続的にサポートできる体制を整えました。

南部地域交流センター・よりなん



2017年度の事業(抜粋)



●よりなん感謝祭

活動団体の日頃の成果を発表するとともに、地域との交流を深めるイベント。参加団体やボランティアと協力して、ステージ発表、活動体験、作品展示などを行いました。



●昔のあそび体験フェスタ

老人クラブや高校生などが協力して「あそびの先生」となり、子どもに「お手玉」や「竹馬」などの昔のあそびを体験してもらうことで、世代を超えた地域のつながりが深まりました。



●生きがいがづくり促進事業

シルバー世代の方々に生きがいとなるものを発見してもらうための1日体験講座。全24講座が実施され、歌声ひろば(みんなで歌をうたう)やヨガなどが好評でした。



●まち育てスクール

三河一向一揆の拠点となった勝鬃寺、日本の自動車製造の先駆者・橋本増治郎の生家などを訪れました。振り返りのクイズ大会では、全問正解者が続出。楽しく歴史を学びました。



●上地学区親子夏祭りへの参加

地域づくり支援を目的に、夏祭りに出店しました。ボランティアとともに風車を手作りして販売し、地域とのつながりをより深める機会となりました。



●防災講習会

防災意識向上を目的とした講習会。「耐震化と家具転倒防止」、「身近なもので作る防災グッズ」など、大地震発生時に役に立つことを学ぶ機会となりました。

西部地域交流センター・やはぎかん



2017年度の事業(抜粋)



●子どもの街
子どもの創造性を育む場の提供や世代間交流を目的とした事業。矢作地域で子どもの健全育成に関わる教育機関や地域団体(老人クラブなど)の協力のもと、運営を行いました。



●11周年春まつり
矢作地域で活躍する市民活動団体や地域団体(計40団体)と協働で周年記念イベントを開催。ステージ発表、体験、展示などで団体の活動を周知しました。



●花のとう協賛イベント
矢作町の祭り「花のとう」での協賛イベント。誓願寺や山車蔵の見学、老舗のお米屋さんのこだわりなどの話を聞いて、地域を知っていただく機会となりました。



●やはぎ大衆
専門知識を持つ活動団体が市民に向けた講座を行い、協力団体の公益活動の場の提供や公益活動の活性化を図る事業。野菜づくり講座、ものづくり講座(しめ縄)を実施しました。



●まち育てスクール
親子を対象に土工団地(佐々木町)の工場を巡るツアー。くさびで巨石を割る体験などを通じて、次世代の担い手になり得る子どもたちが岡崎の伝統産業に触れる機会となりました。



●やはぎかん防災講座
地域の特性を学びながら、防災意識の啓発および自助意識の向上を図ることを目的とした講座(水害編、地震編)を開講しました。

東部地域交流センター・むらさきかん



2017年度の事業(抜粋)



●むらさき麦まつり
藤川まちづくり協議会と連携し、地元の活性化を目的としたイベントを開催。歴史や文化を感じられる藤川宿スタンプラリーや特産のむらさき麦商品の販売、試食などを実施しました。



●むらさきかんフェスタ
舞台発表をはじめ、空手、工作などの体験、手作りの販売や展示などを通じて、市民活動団体(約45団体)と市民との交流を目的としたイベントを開催しました。



●東部の活躍人！交流会
東部地域で活躍する市民活動団体、地域団体が集まり、情報交換と親睦のための交流会を実施。多くの団体が「顔の見える関係」になり、連携しやすい環境を作ることができました。



●まち育てスクール
東部地域を巡るまち歩き。全国屈指の規模である万足平(まんぞくだいら)の猪垣の見学、ゆず狩り体験、地元の方手作りの郷土料理などで、東部の魅力を再発見しました。

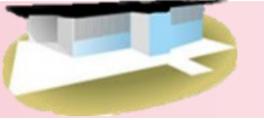


●むらさき麦食育講座
藤川まちづくり協議会、愛知学泉短期大学と連携。「むらさき麦」を使った大人向けの料理教室や、栄養について学べる子供向けの食育教室を開催しました。



●東部の“いいところ”行っとこ！展
情報誌で取り上げた記事を中心に、岡崎市東部地域の魅力ある地域活動や市民活動、名所、施設、イベントなどを紹介する展示を行いました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2017年度の事業(抜粋)



●ゆき収穫祭
悠紀斎田で育ったお米を収穫し、昔の道具を使用した脱穀などの収穫体験をメインにしたイベント。そのほか、焼き絵やバルーンアート、バランスボール体操などの体験も行われました。



●4周年ゆきフェスタ
悠紀の里の周年記念企画。公益活動を行う団体や個人の成果発表の場として、歌やマジックなどのステージのほか、作品や活動紹介の展示を行いました。



●お田植えみんなでアート
地域行事「六ツ美悠紀斎田お田植まつり」に合わせて開催アートイベント。ガラス絵、ローズウィンドウなどのコラボにより、約2×8mの壁面ガラスに一つの大きな作品を作りました。



●まち育てスクール
協働によるまちづくりの担い手を育てることを目的に、地域住民を主体に具体的なまち歩きコースを計画。次年度のまち歩きツアー実施に向けての基礎を作りました。



●みんなのむつみ展
六ツ美をテーマにした写真、絵画、陶芸などの作品を市民から募集し、地域の魅力を見つめ直すことを目的とした展示会を開催しました。



●おやこ夏祭り
複数の子育て支援団体と協働した子育て世代の方が市民活動に触れることを目的とし、イベント。さらしでだっこ・おんぶ体験やバランスボール体操などが好評を得られました。

りぶら市民活動センター



2017年度の事業(抜粋)



●まちびとバンク
公益活動促進のため、ボランティアをしたい人とボランティアを必要としている団体について815人42団体のマッチングを行いました。(6センター全体では3207人)



●NPO講座
子どもが自らの意思で自由に遊ぶことを目的としたプレーパークの普及に携わっている塚本岳氏を講師に迎え、地域づくりについて考えたほか事例紹介なども行われました。



●もののバンク
市民の方より提供された不用品と、それらを必要としている市民活動団体へ届けるシステムの運用。37件のマッチングが成立し、団体が抱えるモノ不足解消に努めました。



●まち育てスクール
公益活動を行う市民の発掘・育成を目的に行うイベント。図書館交流プラザ・りぶらと周辺エリアの魅力を伝え、いつもと違う楽しさを体感してもらうまち歩きを3コース実施しました。



●岡崎NPOコラボひろば(愛称：おかぶら)
岡崎市で公益活動をしている個人、団体、社会貢献に興味のある企業を対象とした情報交換会を年9回開催しました。



●公益活動支援
ボランティアや助成金の情報提供など、公益活動に関するさまざまな相談に対応。また、岡崎市の市民活動団体登録の申請相談・受付対応などを行いました。